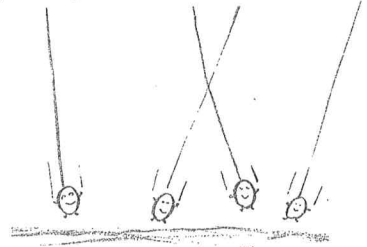


# 夢窓幼稚園通信第49号

2014年10月 4日

あやつり人形に似ているようですが、あやつり人形ではありません。「あやつり」でも「人形」でもなく、弱々しくとも与えられた自我をもって生きる人間です。



迷いや つまづきは山ほどありますが決して見離されることはありません。

迷いながらも一歩踏みだし、つまづきながらも立ちあがることのできる大地を与えられ、いつでもおひさまが光を降り注いでくれています。

そのようにして生きている 私たちは、まるで見えない長い糸につながっているように思えるのです。

その糸を通して自分の役割が委託され、その糸を通して果たした働きをお返しできます。

たくさんの叡智が届けられ、自分の側からは七転八倒の末につかみとった ささやかではあっても新しい価値を投げ返すことができます。

アイデアやイメージを受けとり、悉戦苦闘の中で作り出せた 小さな成果や、物事・出来事をこちらから示せることもできます。

私につながっている その糸は いのちの海、いのちの空へと伸びています。私が大切にしている価値観や感じ方、心の及ぶところ、受容できる世界... 私が世界と呼べる実感できるところにまでつながっている気がします。

私がある一点を認められないなら、糸はそこにまで及ばないのでしょう。反感や否定をするところには糸はつながらないのです。その糸は 他ならない私自身が長くも短くもできるのかもしれませんが、瞬時へ、私次第で変化する糸なのかもしれません。

伸びやかに 自由に その糸がありますように！

決して あやつり人形ではありません。自分の生き方が作り出し、作り出した その糸によって より自由に向かえる 見えない いのちの流れなのです。

与えられている 私のいのちは 私だけのものではなく、私の中で閉じられているのではなく、世界と結びついていて、その世界は、私の共感による生き方で いかようにでも 変容して見えてくるものなのだと思えます。

ちびっこたちが 伸びやかに いのち ころころと 踏びはねています。安心と よろこびと 可能性の中で生きています。

私も そんなふうには 生きることができればと 願っています。

--- 10月向け通信 巻頭言について ---

園長 弁光 泰雄